

# 同志北條千秀虐殺16ヵ年弾劾 東京拘置所に 怒りの報復戦を叩きつけよう！

全国反戦青年委員会  
全日本学生自治会総連合(五代委員長)

東京都杉並区下高井戸 1-34-9

03-3329-0165・0168

<http://zengakuren.info/>

## ■東京拘置所による同志虐殺に必ず報復する

本年1月をもって東京拘置所による同志北條千秀虐殺から16ヶ年を経過する。反戦青年委員会と全学連は、かけがえのない同志を東拘一監獄当局のテロルによって奪われた怒りと無念をかみしめ、決意も新たに虐殺の下手人—東拘当局に対する弾劾・報復の闘いにたちあがる。

同志は、日韓の治安機関と意を通じたキリスト教原理主義を標榜する反共ファシスト宗団＝「明大ゴスペル」による襲撃・売り渡しによって1998年5月26日逮捕一起訴され、以降東拘の獄中であつた。ファシスト宗団の襲撃により肋骨骨折の重傷を負わされながらも完全黙秘・非転向で「取調べ」と対決し、起訴後は、反共ファシスト宗団と権力・明大資本が一体となった反革命弾圧に怒りを燃やし、東拘の獄中弾圧と対決し公判闘争・獄中闘争を闘っていた。

監獄は闘う者に屈服・転向や獄殺を強制するための、暴力装置に他ならない。東拘当局は、90年天皇決戦への報復弾圧により超長期の投獄攻撃を受け東拘に在監していた北條秀輝同志を、同志が密接に支援してきたことや、実力・武装の闘いを担ってきたことに憎悪を燃やし、同志に“転向・屈服かもしくは虐殺か”という攻撃を集中してきたのである。こうしたなか同志は、不眠や過換気症など拘禁症に伴う諸症状を発症しながら獄中闘争を闘いぬいていた。

発症を口実として東拘当局は、同志を医療とは名ばかりの薬漬けの状態にした。98年12月には、「薬があつていない」と抗議したことを“大声をあげた。”と「保護房」に叩きこみ、懲罰を通告した。こうした攻撃に対し同志は、非転向の獄中闘争を貫徹し階級裁判を粉碎するために格闘していた。公判では傍聴席の同志・友人達とエールを交換し合った。

このさなかに監獄当局は「首をつって自殺を図った」と発表し、報道させた。しかし、獄中者が指摘しているように東拘は千秀同志の救命を第一には立てなかつたことが判明している。救急・救命設備のある医療機関への搬送を遅らせ、東拘構内に4時間わたって放置し続けた。そして、その間二度にわたって北條秀輝同志に面会を強制したのである。東拘当局は救命措置をおこなうことなく意識的に同志を虐殺したのである。虐殺の下手人＝東拘当局を断じて許すことはできない。

反戦・全学連は同志に対する獄殺攻撃を、同志と共に粉碎する闘いにおいて不十分であつたがゆえに虐殺を阻止できなかったことを自己批判し、どのような困難があろうともそれを正面突破し、全虐殺下手人・機関に対する報復戦を闘い抜く。監獄解体—獄中者解放を勝ち取る。

## ■報復戦に敵対する反革命木元グループを解体・根絶しよう

反戦・全学連は、虐殺の下手人・機関に対する報復とともに反革命木元グループ解体・根絶の闘いを全力で推進する。

木元グループ頭目＝木元こと山田茂樹は、「明大ゴスペル」を指導する韓国情報機関のスパイとボス交を重ねるなかでファシストへの屈服を深めていった。そして、襲撃したファシストを免罪し、ファシスト弾劾、階級裁判粉碎を掲げて闘う「被告団」に敵対し、非妥協で闘う者たちへの排撃を組織した。

さらに「東拘はやることはやった」と「本人責任」論を吹聴して回った。「獄殺とすると、若いメンバーが監獄を恐ろしいところと思ってしまう」と、自らの監獄支配への恐怖を吐露しながら、「保護房」弾劾の闘いすら圧殺しようとした。「本人の思想的問題」にすべてを切り縮め獄中一獄外貫く闘い団結の限界性と課題を明らかにし闘うことに敵対した。

ファシスト宗団から「お友達」とまで言われた木元グループは、ひとたび闘う隊列から脱

落・逃亡すると、権力・資本の手先として200名を超える明大生協労働者の全員解雇を強行し、5同志虐殺を強行し、反革命集団へと転落した。13年末に逮捕された頭目・山田は、「取調べ」に黙秘することもなく、反撃戦もなく権力との取引をもって釈放されている。反戦・全学連は生みだした責任において必ずや木元グループを解体・根絶する。

木元グループの屈服と転落の対極に獄中一獄外貫く革命的共同性の創出に向けた闘いが前進している。闘う勢力に対する初の組織犯罪対策法適用策動を粉碎した闘いのなかで獄殺攻撃を受けてたち粉碎する獄中一獄外共同の実力闘争が実現し、監獄を頂点とした暴力支配機構解体に向けた闘いが燃え上がっている。

反戦・全学連はこの闘いを同志虐殺に報復する闘いへと繋げ全獄中者の怒り、治安弾圧に対する労働者・人民の怒りと結びつき闘う。木元グループを解体し、「保護房」撤廃—監獄解体、すべての獄中者解放にむけ共に闘おう。

## ■死刑制度廃絶・「保護房」撤廃—全獄中者の解放に向け闘おう

安倍連合政府発足以来、6回、11名の死刑が執行された。袴田さんの再審開始決定を受けてもなお死刑を強行している。死刑執行を宣言する法相上川のもとでの死刑執行を阻止しよう。鳩山邦男以来の「死刑のベルトコンベアー化」の動きを粉碎し、国家による人民虐殺＝死刑制度を廃絶しよう。

福岡拘置所では反戦・全学連の獄中同志が死刑執行を弾劾し断固とした獄中シュプレヒコールに決起している。組対法弾圧の継続としてある13年1・16「脅迫」弾圧により投獄攻撃を受けている同志は、繰返しの「保護房」叩き込み、懲罰に屈することなく執行に弾劾の声を挙げている。福岡高裁による控訴審—発結審を弾劾し、1・9控訴棄却攻撃を許さず共に闘おう。

死刑執行の常態化と共に監獄支配秩序のファシズム的改編に拍車がかかり、「保護房」をテコ

とした獄中治安が強化されている。組対法攻撃を粉碎した同志達は、福拘による「保護房」や「強制給食」など拷問—虐殺攻撃をはね返し、「保護房」への叩き込みをはじめとした獄中者への拷問・虐殺を許さずに闘いぬき、出獄後も追撃・報復の闘いをうちぬいている。「強制給食」国賠控訴審—発結審強行—1・19棄却判決策動を許すな。反戦・全学連は、「保護房」に叩きこまれ痛めつけられたあげく虐殺された千秀同志をはじめとする多くの獄中者の怒りと無念をわがものとして闘いぬく。

階級支配—差別支配を維持・拡大のために存在する監獄—「保護房」を解体・廃絶するのは〈恐慌・戦争—ファシズム攻撃〉下の第一の課題だ。北條千秀同志虐殺16ヶ年徹底弾劾！ 監獄解体—獄中者解放を掲げ全国の監獄に向け反戦・全学連と共に進撃しよう。